

東京や大阪のベンチャー企業が次々とサテライトオフィスを開設し、若者の移住者が増え、おしゃれなお店もオープンする四国の右下にある小さな町。今、美波町が地方創生の先進地として全国からの熱い視線を集めていることをご存じですか？この動きをさらに広げるために定められたのが、「美波ふるさと創造戦略」。

「美波 地方創生だより」では、「それ何？」「どうして？どうやって？」「今どうなってるの？」を追いかけ、毎月お届けしています。

「若い人がおらんようになった…」は、なぜ起こるのか？ 《part 2》

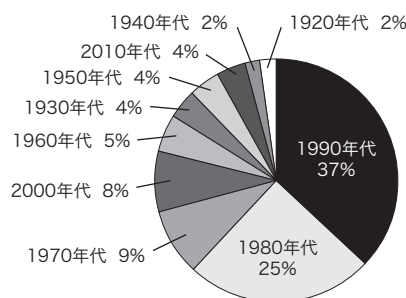
前号で、美波町の2016年の社会動態推移（転出者と転入者の差）が-77人という、衝撃の数字をお伝えしました。今回は「何歳ぐらいの人が美波町から出て行っているのか？」を細かく見てみましょう。

右の図は、「美波町を転出した人の生年」を、割合別に示しています。1990年代生まれ（およそ17歳～26歳）の人が全体の37%、1980年代生まれ（およそ27歳～36歳）は25%。やはり若い世代、特に20歳前後の進学・就職世代の流出が多いことがわかります。

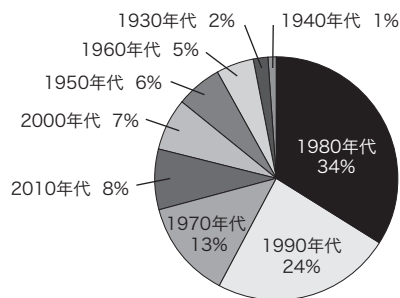
一方で、「美波町に転入してくる人」はどうでしょう。転出者と逆転して、1位は1980年代生まれ（およそ27歳～36歳）となりました。社会に出て数年、ある程度スキルも身につけ、働く場所や生き方について改めて考え始めた人々が、美波町に集まる傾向があると言えるのではないのでしょうか。

都会や社会で一定の経験を経た人にも選ばれる美波町。この世代に町の魅力がもっと伝われば移住者も増え、町の人口減少に歯止めをかけることができるのではないのでしょうか。

転出する人の年齢層（生年別）



転入する人の年齢層（生年別）



注目されています！美波町！

■ 最近のメディア掲載情報をお知らせします。

- [雑誌] 月刊商工会2017年2月号 特集「若者は地方を目指す」
まめぼんカフェ、日和佐燻製工房、(株)まめぞうデザイン、(株)あわえから、移住して暮らす人々のインタビューを掲載。
- [新聞] 徳島新聞2017年2月2日 「美波に16社目のSO」
- [新聞] 日経産業新聞2017年2月10日 「地域の課題 IoTで解決」
株式会社イーツリーズ・ジャパンのサテライトオフィス進出。
- [新聞] 徳島新聞2017年2月2日 美波町に新規オープンする韓国料理店「オモニ」にて、移住者と地域住民の交流会が開催される。

空き家の情報お待ちしております！

住宅やオフィスとして利用できそうな物件について、下記まで情報提供をお願いいたします。

役場総務企画課 ☎77-3611

空き家活用

